

## 『口腔ケア強化週間』の効果的な実践による職員の意識改革に基づく 誤嚥性肺炎の予防効果について

－利用者のQOLを守りたいという職員の思いの実現－

社会福祉法人友愛十字会 特別養護老人ホーム 砧ホーム

吉岡 いずみ、片平 ちえみ

(口腔ケア 肺炎予防 食事)

### 1. 目的

当施設では、近年、利用者の重度化が進んでおり、平均要介護度は4.1前後を推移している。新規入所者も含め嚥下能力が低下している利用者が多く、トロミ剤を使用する状況にある方の割合は43%で、前年（令和元年）度からも3%上昇していた。介護職員の間では、「以前より嚥下状態が悪化した利用者が増えている」「食事介助をしてもすぐに痰がらみやむせ込みを起こしてしまい、それが原因の発熱などによって更にADLが下がっていく悪循環になっている」という実感があつた。また重度化した利用者が誤嚥性肺炎によって入院されると、そのまま病院で逝去されるか、回復せず看取りで帰園となるケースが少なくないのが現実であった。



以前より、介護職員の間では「むせ込んでも、看護職員に吸引を依頼すれば何とかする」という意識が根強くあり口腔ケアの習慣付けの妨げになっていたため、利用者に接する機会の多い介護職員が“誤嚥に対するリスク”への危機意識を高め、口腔ケアによりこれを防ぐという認識と行動をいかに根付かせるかが課題となっていた。そこで、定期的に『口腔ケア強化週間』を設定し啓発活動を行ってきたが、「口腔ケアをしっかりとしましょう」や「物品の清潔を保ちましょう」の様に具体性に欠けるスローガンを掲げるだけだったことが、介護職員にとっては「いつやるのか」「どのように行うのか」が各自の判断に委ねられ、均一なケアの実施が難しかったばかりか取り組みの形骸化を招いてしまい、却って口腔ケアを弱化してしまっていた。そのため、介護職員の口腔ケアに対する認識を高め、口腔ケアの実施が習慣づけられることで誤嚥性肺炎での入院者を減らすことができると仮説を立て、誤嚥性肺炎の発症及びそれによる入院を防ぐことを目的とし『口腔ケア強化週間』の効果的な実践を開始した。

### 2. 実践内容

令和2年度の『口腔ケア強化週間』では、「食事中に痰がらみが見られたら、吸引の前にまず落ち着いて口腔ケアを行い、原因となっている痰や食物残渣を除去する。吸引自体も利用者の身体負担となるため最終手段にとどめ、こまめな口腔ケアで口腔内の清潔を保ち、誤嚥性肺炎などの予防に繋げる」という明確なテーマを示し、また新型コロナウイルス感染症にも絡めて「口腔内の衛生を保つことでウイルス感染の予防に繋がること」を資料で示し、その上で「絡んだら、まず……？ 口腔ケア！」と毎回同じスローガンを設定して展開することとした。

実施期間：第1回 令和2年5月18日～6月30日、第2回 令和2年10月23日～10月29日、  
第3回 令和2年12月14日～12月20日

